

品川いきいき健康マージャン広場事業

賭けないマージャンで介護予防

「広場」事業は東京都品川区と（社）長寿社会文化協会（WAC）と日本健康麻将協会（麻将協）の協働事業。60歳以上の品川区民の健康づくり、仲間づくりを目的として、区が募集と会員登録を担当する。そして、賭けない、飲まない、吸わないマージャン（これを「健康マージャン」という）を企画・立案して、運営責任を負うのがWAC。また会場を提供し、個人成績の管理を行い、ルールやマナーに詳しいボランティアスタッフを育成し、WACとともに運営にあたるのが麻将協と、それぞれが得意な分野でこの事業を支えている。

WACと麻将協が品川区に提案したのは2000年の秋。「要介護高齢者をつくらないようにするための介護予防事業がますます重要となるが、従来のように行政の施設を使ったり、助成金を出したりするやり方は限界にきているのではないか。そこで民間の施設と民間の人的資源（ボランティア）を活用して、受益者負担の原則で、介護予防を一緒にやってみないか」という提案。

1年間の検討期間はあったが、さすが高齢者対策では一歩先んじているといわれている品川区、「GO」の決断が下され、2002年1月から3ヶ月のテスト期間を経て、品川区が主催者に加わる三者の協働事業として本格実施となった経緯がある。

予想を大幅に超えた応募者

3月下旬の「区報しながわ」で告知したところ、応募が殺到した。「広場」の会場には全自動マージャン卓が7台設置されており、定員は28名。一方、応募者はその5倍に当たる140名を超えた。

週1回、水曜日の開催としていた予定を、さらに1日増やし、金曜日にも開催することとしたが、とても需要に応じきれない。やむを得ず隔週参加としていただくことで、乗り切ることになった。

もう一つ区が喜んだのは、応募者の半数を男性が占めたことである。区によれば、これまで高齢者の社会参加を促すためにさまざまな催事・行事を行ってきたが、何をやっても男性の参加は極めて少なく、2割を超えれば上出来であったという。男性の参加が半分を占めることなど稀のことだったのだ。

介護予防にマージャン？

中高年の男性が「濡れ落ち葉」「粗大ゴミ」といわれて久しい。会社人間のなれの果てを言いえて妙であるが、これは必ずしも本人だけの責任ではないと思

う。日本の経済成長とそれに伴う産業構造の変化は、都市部に大量のサラリーマン世帯を生み出す結果となった。

今、都市部には、その土地で生まれ育ったわけでもない中高年の人たちであふれている。その他には幼なじみは誰もいないし、思い出に残る場所があるわけでもない。退職したから「明日から地域になじめ」と言われても、そのきっかけが見つからないのである。

これまで長年にわたって高齢者の社会参加活動を担ってきたのは、土地土地の「老人クラブ」である。しかし、地元の人を中心となって運営されている老人クラブの活動には、移住民は入りにくいのだ。

団塊の世代がまもなく定年を迎える今、地域になじみにくいサラリーマンOBが地域の活動に参加したくなる新しい仕掛けが必要なのである。

今の中高年世代が青春時代を送ったあの頃、社交ダンスとマージャンが大人気であった。社交ダンスの方は現在でもシルバーの人气が高く、数多くのサークルがあって、毎日のように行政の施設を利用して活動が行われている。

しかし、もう一方のマージャンとなると、賭け事のイメージが強すぎて、健全性を欠く遊びとして認識され、サークルも育たず、行政も支援する対象としていない。ここが問題。

WACが会員のための趣味活動として「賭けないマージャン」を取り上げて10余年。ルールやマナーについて規則をつくり、ボランティアの世話人たちの手できちんと管理していけば、健全なマージャンを楽しく運営していくことができることが事実として証明された。

また、WACの健康マージャン活動の存在を知って、たくさんの賭けないマージャンの愛好家が集まってくることも明らかになった。そこで、地域になじみにくいシルバー男性に社会参加してもらう切り札として、健康マージャンが効果があることもわかった。

行政に対して健全性の保証は、WACが責任をもって行うことであり、男性の参加者をさらに増やすことが期待できる。

地域活動の新たな拠点に

健康マージャンに参加した人にアンケートした中で、「自分の趣味や特技が活かせるなら、ボランティアをやってみたいか」との問いに37.7%の人がイエスと答えている。

そこで「広場」を、趣味のマージャンを活用した新たな地域活動（ボランティア活動）の出発点としていきたいと考えておられる。

すでに「広場」の参加者の中から7人の方がマージャンボランティアの登録を終えており、「広場」スタッフのアシスタントに携わっている。

今後は、デイケアに出張してマージャンのお相手をしたり、教えたりするなど、マージャンによる介護予防活動をボランティアの手で広げていきたいと考えているとのことだ。

<まとめ>

健康マージャン会場に入ると、とにかく笑い声が絶えない。遅れて来られた89歳の男性曰く「ここに来てみんなと一緒に話すことは、楽しいよ。家に居たら、誰とも話さないこともあるからね。」と上機嫌で話してくださった。

その方は何と、常に上位におられるマージャンスペシャリストだとか・・・年をとっても交友関係が深まり、会場のマージャンだけでなく温泉旅行を計画したり、お花見を企画したりと話は尽きない様子が伺える。

光市においては、貸館で1ヵ所個人的に健康マージャン的なことを行われているということを知った。私自身が全くマージャンを知らないのでピンとこなかったが、初心者コース、中級車コース、上級者コースと頭を使って楽しめるような指導があれば、会話がはずむこと間違いない！具体的な協働事業として取り組めるような組織があるのか、光市なりの介護予防事業として、お金を賭けずに取り組めないか、品川の事業を参考に調査してみる価値は大きいと感じた。